総合

支部と法人営業が商談

JTB旅ホ連 拡大キャラバンに280人

JTB協定旅館ホテル連盟（旅ホ連）は12月11日、宿泊増売に向けて、旅ホ連支部会員とJTB営業社員による合同商談会「2024年度拡大キャラバン」を東京都新宿区の京王プラザホテルで開催した。旅館・ホテル経営者など32支部の約120人と首都圏のJTB法人営業担当者約160人、計280人が商談を繰り広げた。

旅ホ連の各支部は、それぞれJTBの店舗や事業部に対し販売促進の活動を行っているが、一堂に会する機会をつくり、協業とコミュニケーションの強化を図ろうと、拡大キャラバンが企画されている。コロナ禍で休止した年があったが、前年度に続いて4回目の開催となった。

今回は、各支部から3分間ずつの全体プレゼンテーションを行った後、時間を区切って支部ごとの商談を実施した。商談会は5時間近くに及んだ。各支部は、最新の観光スポットや地域で磨き上げている観光コンテンツ、開業を控えるMICE施設などを紹介し、送客や商品造成を働き掛けた。

JTB旅ホ連の拡大キャラバン。支部とJTB法人営業担当者が商談

商談会後の懇親会で、JTB協定旅館ホテル連盟の宮﨑光彦会長（道後御湯）は「JTBとのパートナーシップのもと、宿泊増売に努めているが、本当に稼げる濃い商談ができたのではないか。お客さまが世界から各地を訪れ、国内の交流人口が増えることを期待している」とあいさつした。

JTBからは、大塚雅樹・取締役専務執行役員ビジネスソリューション事業本部長が登壇し、「お客さまのさらなる期待に応え、新しい提案をしていくには、宿泊施設の皆さまとのエンゲージメント、強い絆がないといけない。ビジネスパートナーとして皆さまからいただいた情報を生かし、しっかり前に進んでいきたい」と述べた。【向野悟】

市川團十郎さんを任命

温泉文化アンバサダーに

群馬・草津温泉でユネスコ登録に弾み

全国推進協

「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会（会長・青柳正規多摩美術大学理事長）が、歌舞伎俳優の市川團十郎さんを「温泉文化アンバサダー」に任命した。国内外への温泉文化の発信役を期待し、ユネスコ無形文化遺産への登録を応援してもらう。

群馬県が12月7日に草津町の草津温泉で開催した温泉文化の魅力を発信するイベントの中で、群馬県の山本一太知事、同協議会の井上善博会長代行（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会会長）の同席のもと、任命式が行われた。

（写真右から）山本一太群馬県知事、市川團十郎さん、協議会の井上善博会長代行（全旅連会長）

温泉文化アンバサダーに任命された市川さんは「本当に温泉が好きなので、ここの温泉に行ってみてくれと言っていただければ、ぜひお邪魔させていただく。微力ながらお力になれれば」と就任の抱負を語った。

市川さんは同日、「市川團十郎草津特別公演」として「延年之舞」を披露。温泉文化をテーマに山本知事とのトークショーにも出演した。

地熱開発に秩序求める

日本温泉協会が理事会

日本温泉協会（多田計介会長）は12月16日、理事会を東京都千代田区の全国旅館会館で開催した＝写真。2025年度事業計画案などを審議。地熱発電開発を推進する政府の動きを踏まえ、温泉資源の保護や影響が出た場合の補償などを求めていく姿勢を改めて確認。「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録を目指す活動も引き続き推進する。

地熱発電開発を巡って政府は、脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの一つとして開発を推進する方針。多田会長は「首相の所信表明演説に地熱の活用が入ったことで悩ましい状況だが、国策に真っ向から反対ということではなく、秩序ある開発ということを強調しながら、関係者と連携して対応していきたい」と述べた。

日本温泉協会は、地熱発電開発に対し、①行政や温泉事業者など地元の合意②客観性が担保された相互の情報公開と第三者機関の創設③過剰採取防止の規制④継続的かつ広範囲にわたる環境モニタリングの徹底⑤被害を受けた温泉と温泉地の回復作業の明文化―を条件とするよう関係省庁や関係機関に要望している。

25年度事業計画案の柱は、地熱開発に対する提言、要望活動▽「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録の活動▽入浴エチケットポスターの販売による入湯客のマナー向上▽機関誌「温泉」、ホームページ「温泉名人」、SNSによる温泉情報の発信▽「温泉検定」の実施を通じた温泉知識の普及▽温泉モニタリング装置の開発、普及への協力▽レジオネラ属菌対策と温泉に関する新たな課題への対応―など。

25年度の会員総会は、6月24日に北海道・登別温泉で開催する。登別温泉での会員総会は、コロナ禍の影響を受けて20年度、21年度と2年連続で中止になったが、地元の協力があり、25年度の開催地に決まっている。

「気候変動待ったなし」

施設協会セミナー 佐座槙苗氏が講演

国際観光施設協会（鈴木裕会長）のセミナーが12月5日、東京都千代田区のホテルメトロポリタンエドモントで開かれた。環境団体、SWiTCH代表理事の佐座槙苗氏が、「地球沸騰化を止めるには今しかない～私たちに突きつけられた地球からのレッドカード」と題して講演した。

佐座槙苗氏

佐座氏は地球温暖化による気候変動を止めようと、若い世代を中心に啓蒙教育活動を推進。取り組みは国際的に評価されている。2024年11月にアゼルバイジャンで開かれた地球規模の温暖化対策を話し合うCOP29（国連気候変動枠組条約締結国会議）には日本政府団として参加した。

佐座氏は、地球温暖化による気候変動の現状や影響、脱炭素の重要性、世界の動きを解説。気候変動による観光分野へのマイナスの影響では、自然災害による被害、熱中症リスクによる夏季の需要減少、原材料費や水道光熱費の高騰などを挙げる一方で、環境に配慮した観光地や宿泊施設に旅行者の支持が集まったり、エコツーリズムや地産地消の食の需要が増加したりといったプラスの側面もあると指摘した。

「気候変動への対策は待ったなしだ。取り組みを加速させることは、生活をより良くするためにも、事業を成長させるためにも必須なポイント。サステナブルの観点で事業を再検討したり、マーケティングを実行したりすることで、事業収益につながる可能性も大きい」と述べた。

2025年 総会・大会日程

観光・宿泊・旅行関連団体

▽日本ホテル協会＝3月27日、東京都千代田区・帝国ホテル

▽KNT―CTパートナーズ会＝6月3日、東京都港区・シェラトン都ホテル東京

▽日本観光振興協会＝6月10日、東京都港区・品川プリンスホテル

▽JTB協定旅館ホテル連盟＝6月11日、大阪市・シェラトン都ホテル大阪

▽全日本ホテル連盟＝6月12日、東京都千代田区・ホテルメトロポリタンエドモント

▽日本バス協会＝6月13日、東京都千代田区・経団連会館

▽全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会＝総会・6月16日、東京都千代田区・全国旅館会館、大会・6月17日、東京都千代田区・ホテルニューオータニ

▽国際観光施設協会＝6月16日、東京都千代田区・ホテルメトロポリタンエドモント

▽日本旅館協会＝6月20日、東京都港区・ホテルインターコンチネンタル東京ベイ

▽日本温泉協会＝6月24日、北海道・登別温泉・登別グランドホテル

▽全国旅行業協会＝6月25日、東京都千代田区・都市センターホテル

▽農協観光協定旅館ホテル連盟＝7月3日、東京都江東区・ホテルイースト21

▽読売旅行協力会＝7月3日、東京都新宿区・京王プラザホテル

▽T―LIFE協定連盟＝7月8日、山梨県笛吹市・華やぎの章慶山

▽日本旅行業協会＝未定

※日程や会場は、12月中旬時点の情報で一部に「予定」を含みます。

▽日本旅行協定旅館ホテル連盟＝3月5日、大津市・琵琶湖グランドホテル

▽東武トップツアーズ協定旅館ホテル連盟＝3月17日、東京都墨田区・東武ホテルレバント東京

▽東武トップツアーズ協定運輸観光施設連盟＝3月17日、東京都墨田区・東武ホテルレバント東京

▽国際観光日本レストラン協会＝3月25日、金沢市・つば甚

▽日本添乗サービス協会＝3月25日、東京都品川区・きゅりあん

私の視点

457 観光羅針盤

吉田 博詞

昭和100年から考える幸福論

令和6年が終わり、令和7年が始まる。平成の30年を経て令和が始まって7年目突入となる。時代や世代間の価値観の変化を語る際に、昭和・平成・令和をうまく使い分けて表現されることも多くなった。

令和7年、2025年は時に「昭和100年」というキーワードで話題に挙がることがある。この昭和100年という概念をきっかけに、昭和という時代を見直す必要性を感じる瞬間も多い。

かくいう私も昭和56年生まれであり、社内のカルチャーを表現する際には昭和的な会社だと伝えている。また、お邪魔させてもらう地域には昭和文化が今も残っているので、そうした背景を理解した対応が求められるということを社内でも伝えながらお事をさせてもらっている。これは昭和カルチャーを揶揄したものでなく、私の中ではリスペクトしたものでもある。

時代は令和になれど、昭和のどこかあたたかい人とのつながりに憧れや居場所を求める若者が少なくないと感じるケースも多い。観光業界において、DXやAIの加速で各種効率化が進み、いろいろなものがどんどん進化していくことで全体の生産性向上は期待したいところである。

併せて、昭和の良さとして再認識されるのが、人と人とのつながりや、あたたかみのある人間らしい生活といったものであるように感じる。どこかレトロなものに趣を感じるのも、そこに生活感や哀愁といったものだけでなく、令和のわれわれが忘れつつある幸せの概念があるのかもしれない。

ウェルネスやウェルビーイングといった概念やオーセンティックというキーワードがさす幸せや地域文化の在り方といったものの答えは、新たに作り出すものではなく、どこか昭和の中で当たり前にあったものの中にヒントがあるように感じる。地域の共同体がしっかりと機能し、向こう三軒両隣でつながりを持ちながら、地域の祭りにひとつのアイデンティティを見いだして生活する。水や景観、食資源といったものも地域共有の財産として分かち合いながら暮らす姿には、不便さや面倒臭さもあったかもしれないが、そこに自分の居場所を見つけ、共同体の中で生きていくということを体感していたのだろう。

もちろん昭和の時代も工業化がもたらす弊害があったり、やんちゃなことも多かったりと必ずしもすべてが美化されるものではない。ただ、グローバル化・世界の均一化・デジタルによる効率化が進む時代において、本当の幸せとは何かを考える上で、昭和の時代に当たり前にあったものの価値を再認識しながら、令和版にアップデートしていくという動きをとることができれば、より選ばれる、そして帰ってきてもらえる地域になっていくだろう。

この令和7年を昭和100年として、幸せの在り方を考える年として、地域文化再生のひとつのきっかけにしていくことができれば、次の100年にも続いていく足がかりとなるだろう。万博のテーマでもある「いのち輝く」という概念を昭和からもヒントをもらいながら考える年にしていきたいものだ。

（地域ブランディング研究所代表取締役）

講演会のご案内

本紙読者ご招待

日頃は本紙をご愛読頂きありがとうございます。さて本紙加盟の公益社団法人日本専門新聞協会では下記要領で恒例の「新春講演会」を開催いたします。

この講演には本紙読者の皆様も参加できますので、多数のご参加をお待ち申し上げております。

日　時　令和7年1月29日（水）15時30分～17時00分（15時00分 開場・受付）

開催場所　経団連会館4F「ダイアモンドルーム」東京都千代田区大手町1-3-2 Tel 03-6741-0222

開催内容　講　師：作家　北　康利氏　テーマ：「先人に学ぶ　変化の時代に生き残る経営」

申込方法　下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-Mailにて令和7年1月27日（月）までにお申し込み下さい。折り返しFAXまたはE-Mailで参加券をお送りいたします。

募集人員　先着200名様（参加無料）。募集人員に達しましたら締め切らせていただきます。

申込先　FAX 03-3508-8888　TEL 03-3597-8881　E-Mail　kouen@senmonshinbun.or.jp

参加申込書

ふりがな 氏名		年齢	歳
電話		FAX	
E-mail			
会社名又は団体名			
本紙新聞名			

謹賀新年

お客さまをつなぐ、新しい価値をつくる、未来へつなげる

旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼を申し上げます。

2025年、JTBグループは「交わる先に新たな未来」をキャッチフレーズに、ステークホルダーのみなさまと地域や組織の価値を共創し、人流や情報流、物流を生み出すことで、その価値をお届けしてまいります。

皆さまに信頼いただける事業パートナーとして、これからも変わらぬご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

株式会社JTB　代表取締役社長 執行役員　山北栄二郎